

人権コラム 心、豊かに

◆ あれから 70 年…世界人権宣言

『世界人権宣言』が国連で採択されてから、今年で 70 年の節目を迎えます。この宣言は、二度の世界大戦の反省から“人権の尊重”と“平和の実現”を目指したもので、前文と 30 条の本文で構成されています。

この宣言「世界で最も多くの言語に翻訳された文書」としてギネス記録に認定されていますが、実際に読んだことがある人は一体どれぐらいいるのでしょうか？

世界各国が、“将来の世代を救うために”という思いを込めた宣言の採択から 70 年となる 2018 年、国連の事務総長は新年のあいさつの冒頭で「昨年の就任時、私は 2017 年を平和の年とするよう訴えかけました。残念ながら、世界は根本的に反対の方向へ進んでいます。2018 年の元旦にあたっては、もう訴えることはしません。代わりに非常警報を世界に発します。」と世界が危機的な状況にあることを強く語っています。そして、2017 年を振り返り、紛争の激化や核兵器への不安、気候変動、人権侵害などを列挙したのち「結束こそが解決への道。私たちの未来はそこにかかっています。」という言葉で結び、各国のリーダーに向け「団結と結束」によって危機的な状況に立ち向かおうと呼びかけています。

事務総長が危惧してやまない「反対の方向に進もうとする世界」を引き戻すため、わたしたちができること。

それは、「戦争を起こしてはいけない、人権の確立が永久平和に通じるという誓いを込めた、世界人権宣言を世界の各国が再認識する」こと、「世界中の誰もが、生まれながらに自由で、同じ人間として平等で大切にされる存在であることを忘れず、自分と相手との違いを認める寛容で包括的な心を育む」ことではないでしょうか。

その上で大切なことは、自分自身の未来、みんなの未来、そして次の世代のために「力と心を合わせる」ことです。